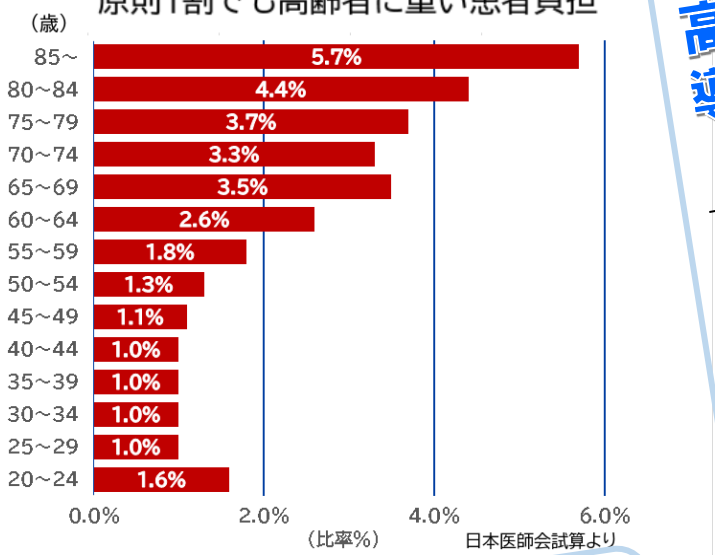
ストップ 75歳以上 医療費窓口 2割負担

菅政権は、７５歳以上に患者２割負担を導入する動きを加速。病気の多い高齢者がお金の心配で受診をがまんして、病気を悪くしかねません。コロナは第３波まっただ中。高齢者が病院にいくことを抑え込む負担増、絶対やめさせましょう。

年収に占める患者負担の比率(現在)

原則1割でも高齢者に重い患者負担



高齢者への患者２割負担 導入は絶対に許せません

いま、７５歳からの窓口負担は、原則１割です。菅政権は年２００万円以上収入がある人の負担を２割にする案を固めました。法案を通常国会に提出しようとしています。病気の多い高齢者の患者本人負担を倍加するなど、リスクに備える「保険」の基本に逆行し、高齢者の早期治療を妨げるものです。

高齢者は窓口１割でも 75歳未満の1.7倍の負担

７５歳過ぎは病気が多いため、2017年の統計によると１割負担でも、75 歳以上の負担は 75 歳未満（年４万４千円）の約 1.7 倍（年７万４千円）になっています。（2017 年「医療保険に関する基礎資料」）

高齢者は 介護保険料も７万円 利用で＋６万円(要支援 1)

後期高齢者は平均年７万円以上の介護保険料を納め、１０人に３人以上は介護保険利用料を、要支援１（最低のランク）の場合で年６万円（月５千円）負担しています。

署名にご協力ください

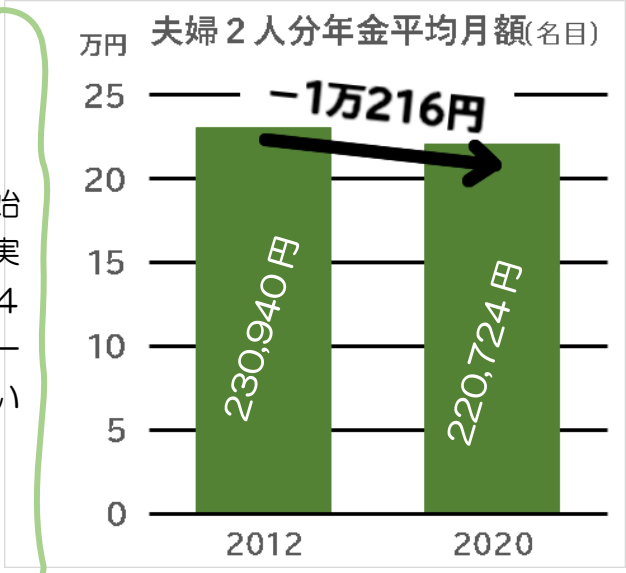
署名用紙をダウンロードできます。
↳http://koureiki.main.jp/act/➡

送り先　日本高齢期運動連絡会
↳〒164-0011 東京都中野区中央5丁目48−5 シャンボール中野504

これ以上の負担増は 死活問題

高齢者の暮らしは年金がたよりです。２０１２年に始まった年金制度の改悪で、２０２０年までの８年間で実質６.４％減らされました。夫婦二人暮らしで２３万９４０円（一人１１万５千４７０円）から２２万７２４円（一人１１万３６２円）に、名目でも１万２１６円減っています。（年金者組合中央本部調査）

年金８年間で実質6.4％減



高齢者にも生きる権利がある コロナ禍に負担増やめろ!!

コロナ禍に追い打ち！

自殺急増(女性は８割増)などコロナの影響は深刻です。コロナ禍で高齢者の健康が脅かされる中で「さらなる受診控えを生じさせかねない政策をとり、高齢者に追い打ちをかけるべきではない」（日本医師会 中川俊男会長）など、患者負担増への批判が広がっています。高齢者のいのちを守る体制の強化が求められるとき、それに逆行する負担増は許されません。

現役世代もピンチ!

患者負担増は親を支える現役世代の暮らしも危うくします。国民の悩みや不安のトップは「老後の生活設計」。高齢期の患者負担増は老後の不安をさらに深刻にします。

国民のいのちと健康をまもるのは、「自助、共助」ではなく、国の責任です。

病気になるのは、自己責任ではありません。高齢になれば誰でも、病気に悩まされ、苦しみます。これは世界共通です。その経費を高齢者に押し付ける国は聞いたことがありません。菅政権は“高齢者は長生きするな”と言わんばかり。高齢者にも憲法で保障された「人間らしく生きる権利」があります。

日本高齢期運動連絡会
〒164-0011 東京都中野区中央5丁目48−5 シャンボール中野504